

1 月定例記者会見会議録

平成 30 年 1 月 4 日（木）午後 1 時～
市役所 2 階 市議会第 1 委員会室

1. 市長からの発表

皆さん明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

職員への年始の訓示でも申しましたが、伊賀市長に就任して 6 回目の新年を迎えました。昨年 6 月に策定した第 2 次再生計画の目標の実現に、また、これからの伊賀市づくりに気持ちを新たにしたいところです。

今年の一文字として「希」という文字で表してみました。「まれ」「のぞみ」あるいは「こいねがう」とよみ、「希望」の「希」であります。

伊賀市には、他に無い「まれ」な宝がたくさんあります。ユネスコ無形文化遺産に登録された「上野天神祭りのダンジリ行事」、「伊賀流忍者」、「伊賀焼、組み紐」、「『日本の 20 世紀遺産 20 選』に選ばれた近代建築群」、また、芭蕉翁生誕地も他には無い宝と言えるものです。このような宝を大切に活用しながら、将来の伊賀に希望が持てるよう、市民が「のぞむ」伊賀づくりに向け、「伊賀流」「伊賀らしさ」に拘った施策を展開したいと考えています。

そのような中、本日、㈱宝島社より発行されました『田舎暮らしの本』の中で、伊賀市が「全国 12 エリア別 若者が住みたい田舎部門」東海エリアランキングで 5 位に選ばれました。

伊賀市へ移住された 30 代までの若者世代の人数と、婚活イベント、就業支援制度などが高く評価されたとのこと。昨年度、伊賀市では、県内初となる「移住・交流」の専門部署を設置しました。平成 29 年 11 月末までに、地域づくり推進課の相談窓口では、延べ 792 件の相談を受け付け、結果として、29 世帯 61 人の移住者を受け入れました。相談者の多くが、30 代、40 代でした。

移住者の獲得実績という点では非常に大きな成果を挙げていますが、今後は、伊賀市に移住された方々が地域に溶け込み、地域で活躍することで、伊賀市全体の活性化を促し、「来たい・住みたい・住み続けたい“伊賀市”」を実現できるよう、さらに取り組みを進めてまいりたいと思います。

では、本日の発表事項の資料 No.1 「伊賀ぶらり体験博覧会いがぶら 2017」の結果報告をします。

昨年 10 月 1 日から 12 月 3 日にかけて、今年で 4 回目となります「伊賀ぶらり体験博覧会 いがぶら 2017」を市内各地で開催し、無事終了させていただくことができました。これもひとえに、パートナーの皆さんや、ご参加いただきましたお客さん、「いがぶら」に関わっていただきました多くの方々のおかげであります。改めましてお礼申し上げます。

今回の実績ですが、「4 年間の変遷」の別添資料のとおり、市内の事業者や各団体、個人の方から全 149 のプログラムをご提供いただき、2,302 名の方々にご参加いただきました。昨年と比較いたしますと、プログラム数 37 個、参加者数 273 名が増加し、

過去最高となりました。また、実施回数は、当初予定回数 324 回、実施回数 330 回で 101.85%となりました。

そして、パートナーの皆さんが創意工夫された結果の「果実」である売上高も初年度に比べると 1.7 倍となるなど、回数を重ねるごとに着実に増加しています。

なお、6 個のカテゴリー別集計、月別集計につきましては、別紙資料のとおりです。特に今回は、実行部会員による 9 回に及ぶブラッシュアップの効果で、お客さんの満足度が前回と比べ上昇しました。また、実行部会員全員体制で広報活動を展開した成果もあって、今年初めて参加された方が多くなりました。

今後、参加者のアンケート結果を踏まえ、いがぶら実行部会員で更に分析し、来年度の事業に活かしていきたいと考えています。

2. 1 月の主な行事予定

(1) 平成 30 年成人式の開催について (資料No.2)

開催日時：平成 30 年 1 月 7 日 (日)

受付時間：午後 1 時 30 分から、開式：午後 2 時から

場 所：

校 区	会 場	電 話
崇広中学校区	ハイトピア伊賀5階	0595-22-9801
城東中学校区	前田教育会館蕉門ホール	0595-24-5511
緑ヶ丘中学校区	ヒルホテルサンピア伊賀	0595-24-7000
上野南中学校区	ゆめぽりすセンター	0595-22-0310
柘植・霊峰中学校区	ふるさと会館いが	0595-45-9125
島ヶ原中学校区	島ヶ原温泉多目的ホール	0595-59-3939
阿山中学校区	あやま文化センター	0595-43-1125
大山田中学校区	どんぐりホール	0595-46-2011
青山中学校区	青山ホール	0595-52-1109

内 容：別紙のとおり

問合せ先：教育委員会事務局生涯学習課 (0595-22-9679)

(2) 平成 30 年伊賀市消防出初式の開催について (資料No.3)

開催日時：平成 30 年 1 月 7 日 (日) 午前 9 時

開会式場：ゆめドームうえの 第 1 競技場及び周辺

内 容：通常点検、感謝状贈呈、防火の誓い (幼年消防クラブ員)
分列行進・車両観閲 (ゆめドーム南側駐車場) など

問合せ先：消防本部消防救急課 (0595-24-9115)

(3) 2018 年 1 月 寺田市民館「じんけん」パネル展 の開催について (資料No.4)

日時：1 月 5 日 (金) ~ 30 日 (火) 午前 8 時 30 分から午後 5 時 (平日のみ)

※ 1 月 9 日 (火)・16 日 (火) は午後 7 時 30 分まで延長

場所：寺田教育集会所 第 1 学習室

内容：『同対審』 答申を読み解く

主催者：人権生活環境部寺田市民館 (0595-23-8728)

(4) 2018年1月 いがまち人権センターパネル展の開催について (資料No.5)

日時：1月9日(火)～25日(木) 午前9時から午後5時(平日のみ)

※ 1月18日(火)は午後7時30分まで延長

場所：いがまち人権センターホール

内容：『DV(ドメスティック・バイオレンス)をなくすために』

主催者：人権生活環境部いがまち人権センター(0595-45-4482)

(5) 子育て広場「にんにんパーク」イベント開催について (資料No.6)

日時：1月14日(日)・28日(日) 午前10時から午前11時30分

場所：上野南公園「にんにんパーク内」(伊賀市ゆめが丘七丁目13番地)

内容：1月14日(日)「凧づくり」

1月28日(日)「サーキット遊びをしよう」

主催者：健康福祉部こども未来課(0595-22-9677)

(6) 第58回伊賀地区駅伝競走大会 (資料No.7)

開催日時：1月28日(日)

開会式 午前8時20分～(ゆめドームうえの)

スタート(全部共通)午前10時

閉会式 午後12時30分～

コース：男子5区間19.1km、女子・中学男女5区間15.2km

問合せ先：企画振興部スポーツ振興課(0595-22-9635)

3. その他(主な質疑応答の概要)

【南庁舎について】

記者：今年は市長が南庁舎で過ごす最後の1年となりますが、どのように過ごしていかれるのか、一言お願いします。

市長：今年いっぱい南庁舎から引っ越しするわけですが、まだ気持ち的にはやらなければいけないことが沢山あり感傷に浸っている時間はありません。まず、新庁舎建設が順調に進捗しているということは嬉しいことですし、昨年暮れには、「20世紀遺産20選」の町に選ばれましたので、私たち市民それぞれがその重みをしっかりと受け止めなければいけない、本当に重大な責任を負ったと思っております。それについては、これからの賑わいづくり町づくりでどんな風にしていくべきなのかということをお前向きに皆さんと共に考えていかなければいけないと思います。また、歴史的風致維持向上計画というのもある中でまた新しいファクターが入ってきた訳でありますので、これから少し専門家の皆さんにも意見を聞きながら、将来に誇り残せるそして世界に誇れるこの町をしっかりと活性化していく、そして地域経済を盛り上げていくというようなことをしなければならない年だと思っております。そういう意味では新たなステージを迎えたなと思っております。

【原子力発電所について】

記者：市長、日頃から雑談も含めてお話ししていると、原発問題にご関心があると伺っ

たことがあります。その原発に関して、年が明ける前に広島高等裁判所では伊方原発差止めの仮処分を出しました。野党である立憲民主党も原発に関する国の政策に対立を示しているとのこと。一方で、安倍政権は再稼働の方針を変えていないと聞いています。三重県は原発立地県ではないですけども、市長の自論を聞かせてください。

市長：原発は伊賀の人たちにとって、あまり自らの課題であるという認識は薄いと思いますけども、ここから真北へ80キロで若狭の原発があります。真夏ならば南から風が吹きますが、冬場ですと北からの風がまともにこの伊賀地域を吹き抜けるわけがあります。そんな中で原発というのも我々伊賀の市民もしっかりと考えていけなければいけない課題であると思います。三重県の原子力発電に対するマニュアルを見てみますと、被災地から避難者を受け入れるということがメインになっています。我々がまさかの時の対応があまりテーマに挙がっていないということを危惧しております。伊賀市の危機管理でも、その辺のところをどうするかという検討をするように申しております。あってはいけないことであっても、そんな事も想定をしなければいけないと思っております。大事な事は、原子力というのは普通の災害とは違ってこれは人の一生の何十倍も何百倍も何万倍もかかってその終息に向かうというような災害になるわけ。3.11のときのあの原発被害というものが、人災であったと私は思っておりますけども、そんな中であの災害がどんな影響を及ぼして、どんな不幸をもたらしたのかということをしかりと私たちは思いを巡らせなければいけないという風に思います。安全がもしお金で買えるとすれば、やはりこの電力料金というものについても私たちはしっかりとその辺のところの認識を持っていくことが必要だと思えます。

記者：率直に再稼働について賛否のご意見はありますか。

市長：私はなくても今までやってきたわけですから、電力料金というものに安全料、安全の対価というものを乗せてもいいのではないかと思っております。十分日本の経済はそれでやっていけると思えます。

【「田舎暮らしの本」のランキングについて】

記者：若者が住みたい田舎で全国ランキング5位とのことですが、どんなところが評価されたのか端的に把握されていますか。

担当：出版社である宝島社に聞かせていただいたのですが、各自治体へのアンケートがあり多岐に渡る項目がございました。ここにもありますように若者の世代部門と子育て世代、シニア世代とさまざまな項目があるのですが、そちらの方が特に当方の回答した内容が若者世代の支援そういった町づくりに適していると数字で現れたものと聞かせていただいております。

記者：田舎という言葉プラスに捉えることもできれば、逆にある意味非礼的に捉えることもできると思いますが、市長はこの結果はどう評価されていますか。

市長：もっと上位かと思っていました。伊賀市は「そこそこ田舎、そこそこ都会」というキャッチコピーですけど、実に自動車道路交通も至便ですし、豊かな自然があり、美味しいものもあるし、施策的にも子育て世代や子どもを対象にした充実度というのは日本でも指折りだと思っております。また、移住の方たちに対するケアもいろんなことがありますし、1㎡農家というようなことも移住に伴ってできるわけですからそういう意味ではもう少し上でもよかったと思っておりますが、結果としてありがたいことと思っております。